

日時：2024年3月26日(火) 17:30-18:30

場所：Zoom開催

進行：ストーマ用品セーフティーネット連絡会 当番幹事 コンバテック ジャパン株式会社

議事：ストーマ用品セーフティーネット連絡会 副当番幹事 株式会社 ホリスター

参加予定者：JSSCR-幸田圭史、板橋道朗、靱山こずえ、山本由利子

JWOCM-紺家千津子、松原康美

JOA-木下静男

OAS-田代浩一、相田真(進行) 梅津靖明、諏訪昌弘、秋葉晃子(議事) 合計 12名

1. 活動報告

1) JSSCRより

板橋：元旦の能登地震の情報更新ができなかった。(委託のため) JSSCRのホームページの更新が課題。

靱山：

2/9日(金) 第41回JSSCR学会総会災害対策委員会企画にて、埼玉県の出陣を発表する予定だったが、能登半島地震の発生を受けて演者を交代し、DMATで能登の現地に入られた方を演者に迎え、講演していただいた。

震災の翌日(10日)は地域代表者会議があり65名参加。地域主導での動きが重要であると確認。

来年、JSSCR分類 第5版が上がってくる予定。JSSCRホームページの用語委員会ページに追加削除の依頼告知を掲載している。

が、2025年2月の発刊までに、更新要。現状の皮膚保護剤の成分分類表一覧(2021年版)はホームページに掲載してあるので、メーカー各社で、確認し、修正希望等上げてほしい。OAS各社に通達してほしい。

松原：第41回JSSCR学会長を担当した。市民公開講座ではJOA、市民の方にも参加いただき一体感のある学会であった。

令和6年度の診療報酬改定でJSSCRがJWOCMと共同提案した「ストーマ処置合併症加算(65点)が保険収載されることになった。

2) JWOCMより

紺家：地震発生時七尾市にいたが、自分も学生も無事であった。

OASから配信された災害時の対応が災害地医療者などに転送するのに非常に役立った。

被災地ではストーマケア用品は充足していたが、ケアに難渋している方が多くおられた。

しかし一斉に金沢へ避難が起き、金沢の医療者にとって、ケア困難な方の対応等、難しいこともあった。県内での連携強化が課題。

松原：新潟、福井、石川、富山の4県にJWOCMの連絡網経由にて厚労省からの告知文を配信。

3) JOAより

木下：能登地方9名のJOA会員。内閣府からオストメイト災害用トイレの支援について、石川県も被災地のオストメイトからのニーズが把握できないので、対応のしようがなかった。現地状況について把握が課題。今後を生かすべく、石川県支部では販売店等と意見交換していく予定。

・6月8日、9日に全国大会を静岡市で開催予定、JSSCR、JWOCMの後援御礼。

・令和6年厚労省への要望。令和4年11月の調査結果をもとに給付額の増額および地域間格差是正の要望。又、避難所での装具交換場所の確保を要望していく。

4) OASより

田代：厚労省自立支援振興室から被災地自治体への案内文書を、厚労省田中氏と協働し、作成。配信。

越屋メディカル様経由で133名に無償提供。1月12日~17日ごろが請求のピークであった。

今回は越屋様の社屋・顧客データに破損がないことが確認できた為、普段オストメイトが使用している装具が無償提供できた。

。 JSSCR 靱山：

課題としては、

1) 越屋様に、オストメイトより「自分が無償提供の対象であるのか？」という問合せが多かった。

2) 被災地エリア在の販売店以外で購入しているオストメイトへの無償提供をどうしていくか？

田代：厚労省担当者変更あり。

各自自治体での装具の備蓄促進のためにも、一度厚労省新担当者にJSSCR、JOAとともに

コンタクトをとっていく。

2024年度はホリスターが当番幹事、担当は諏訪に。副幹事はコロプラスト。
JOA、JSSCR、JWOCのメンバー変更はなし。

次回開催：第57回日本ストーマ連絡協議会
2024年7月23日(火) 17:30～18:30 予定

以上